

令和6年度学校経営計画

東京都立杉並工科高等学校
校長 中里 真一

I 目指す学校像

令和6年度より学科改編により「IT・環境科」がスタートした。今年度は既存の機械科、電子科、理工環境科とIT・環境科4学科が併存する。学科改編スタートであり高い目標をもって入学してきた生徒の進路希望が実現するよう、また2,3年生の進路実現に向けて指導し、社会が求める人材の育成に向けて取り組んでいく。

IT・環境科

(1) スクールミッション

Society5.0 社会の到来、SDGs の実現に向け、IT を駆使して、環境問題など社会の課題を解決に導く人を育成する。(様々な企業や会社の中枢でGX・DXを担う人を育てる。)

(2) スクールポリシー

① グラデュエーションポリシー

- ・ 目標とする大学へ進学するための学力を身につける。
- ・ 幅広い教養を身につけ、生涯にわたって学び続ける姿勢を育てる。
- ・ 電子工学、情報工学の基礎的知識および環境リテラシーを身につけ、より高度な学びに向かう姿勢を育てる。
- ・ Society5.0 社会における環境問題など社会の課題を解決に導く志を育てる。
- ・ 自他を思いやる心、仲間と協働してものを作りだす力を育てる。

② カリキュラムポリシー

- ・ IT、環境に関する教科から普通教科まで、幅広く学習できるカリキュラム編成
1・2年生は、必修科目を中心としたカリキュラムにより、基礎から応用までバランスの取れた学力を身につけます。3年生は、自由選択科目をおくカリキュラムにより、生徒一人一人の進路目標に必要な学力を身につけます。
- ・ 体験型・課題解決型の教科横断的な学習
ITや環境をテーマに探求的な学習活動を行うことにより、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力を育み、他者と協働して課題を解決する力を身につけます。
- ・ 大学へ進学するためのプログラム
連携関係を結ぶ大学の特別講義やゼミへの参加などを行うことで、高校の学びの先の大学を意識させます。
英語検定2級、数学検定2級、ITパスポートに全員が合格することを目指し、放課後補習やオンライン教材による自学習を充実させます。
外部模擬試験で成績の定点観測を行い、授業で弱点教科を改善し、得意教科の伸長を目指します。

③ アドミッションポリシー (求める生徒像)

- ・ ITや環境に関心があり、将来は大学に進学する意思を持って積極的に授業に取り組む生徒
- ・ 中学校で学ぶ基礎学力を概ね身につけている(目安として評定平均3.5以上、数学と英語は4.0以上)生徒
- ・ 学校行事、部活動、生徒会活動等に積極的に参加し、自他を思いやり、仲間と協働することができる生徒

機械科、電子科、理工環境科

- (1) スクールミッション
豊かな教養を備えた地球環境に配慮できる技術者を育てる
- (2) スクールポリシー
 - ① アドミッションポリシー
 - ・ 未来のスペシャリストを目指す生徒。
 - ・ 生涯にわたって学び続ける意思を持つ生徒。
 - ② カリキュラムポリシー
 - ・ 専門教科と普通教科を同時に学ぶ。
 - ・ 教科横断型の体験型学習の充実。
 - ・ 資格取得に向けた講習等の実施

Ⅱ 中期的な目標とその達成に向けた方策

1. 中期的な目標

希望する進路実現に向けて探究心を養い幅広い知識と教養を身につけさせ、将来に渡り学び続ける姿勢を持つ人材を育成する。

基礎的知識・技術、実践的技能・態度が身に付き、希望する進路を実現できる学校を目指し、広い視野でものごとを考え社会に貢献できる、ものづくりの心を持った人材を育成する。

2. 達成のための方策

- ① 大学進学に向けた基礎学力の指導を確実に行う。
- ② 探究心を養うため探究活動を展開し、「思考力、判断力、表現力」を育成する。
- ③ 生徒の学習意欲を喚起する授業を展開する。
- ④ 学力スタンダード、都立専門高校技能スタンダードに基づき、基礎的・基本的な知識・技術を定着させ、進路希望に応じたきめ細かな学習指導を徹底する。
- ⑤ ITスキルの習得を目指した授業、課題解決型学習の充実を図る。
- ⑥ キャリア教育を充実させ、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を身に付けさせる。
- ⑦ 特別活動を充実させ、生徒の自主性や社会性を育成し、帰属意識を醸成する。
- ⑧ 部活動を充実させ、心身の健康・体力の向上および技術技能の向上を目指しながら、思考力・判断力・表現力を磨き、人間力を育成する。
- ⑨ 全ての教育活動において生活指導を徹底し、基本的な生活習慣、ルールやマナー等の規範意識を身に付けさせる。
- ⑩ 保護者をはじめ外部機関と連携して、学校保健活動を充実させ、生徒の健康づくり活動を推進するとともに、生命尊重（自殺防止）や安全の確保に係る指導を徹底する。
- ⑪ 教育相談と「心の触れ合い」を重視し、親身で粘り強い指導を行う。
- ⑫ 地域連携を推進し、本校の特色ある教育を小・中学校、地域に積極的に広報する。
- ⑬ 学校管理運営規定に基づき組織的に学校運営を行い、教職員が一致協力し教育目標の実現を目指す。

Ⅲ 今年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策

1. 今年度における取組目標

IT 環境科の生徒に対して大学進学に向けた意識の醸成とともに基礎学力と探究心の育成を図る。また2、3年の教育の質を落とすことなく生徒の育成を図る。

2. 達成に向けた具体的方策

(1) 学習指導

- ① 探究心を育成するため授業や学校行事等で探究の仕掛けを作っていく。
- ② 自習室の整備や、長期休業中の補習・講習など学習環境の整備を確実にを行い生徒の学習意欲を醸成するとともに高い目標に向けた基礎学力を身につけさせる。

- ③ グランドデザインに基づいた各教科シラバスを作成し、「AL的手法」「ルーブリックを活用した評価」を行い、指導と評価が一体化した授業を実践する。
- ④ PBLを授業に積極的に導入し、生徒の探究する力、学び続ける力を育成する。そして総合的な探究の時間の代替である課題研究を本校の教育活動の集大成として位置付け指導する。
- ⑤ PBLを進めるため、他校種・企業との連携や外部講師の招聘などを積極的に行う。
- ⑥ 一人一台端末を有効に活用し、効果的・効率的な授業を展開する。
- ⑦ 基礎学力定着のため補習補講を行い、中学既習事項を含めた基礎的な知識の定着を図る。
- ⑧ 生徒にとって有用な資格・検定を整理し、取得を目指す取組みを推進する。

(2) 進路指導

- ① 「進路の手引き」・「進学の手引き」を使い3年間を見通した系統的な進路指導を行う。
- ② 進路調査や模擬試験等を行い、生徒の能力や適性を把握し、一人一人の適性に考慮したきめ細かな進路指導を行う。
- ③ オープンキャンパス等を活用し進学意識を醸成し、学習意欲を高めていく。
- ④ インターンシップを2年生で実施し、職業観を形成させ進路選択に結び付ける。
- ⑤ 専門教科における実習や教科「人間と社会」体験活動、そして学校行事、部活動等を通じて、自己理解・他者理解を深め、思いやりの心、社会性を育成し、自己実現を目指す。

(3) 生活指導

- ① 朝の立ち番指導を行い、時間を意識して行動すること、身だしなみや挨拶に関わる指導などを徹底し、礼儀や規律、規範に関わる意識を高める。
- ② 保護者との連携を図り、遅刻防止を含めた基本的な生活習慣の改善に向けた指導を行う。
- ③ 自転車乗車時のヘルメットの着用を徹底させる。
- ④ 「いじめ防止基本方針」等に基づき、いじめや暴力は絶対にしない、許さない指導を徹底するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的開催し、いじめの未然防止に向けた取組や早期発見のための情報共有の工夫を図る。
- ⑤ 授業やセーフティ教室等において、ネットリテラシー、情報モラルに関する指導を徹底する。

(4) 特別活動・部活動指導

- ① 部活動・特別活動および体育の授業において、心身の健康、体力の向上を目指す。
- ② 部活動指導方針に基づき、生徒が主体的に取り組み活躍する機会を作り出す。
- ③ 行事や集会等における校歌斉唱、生徒による挨拶活動、地域への貢献や奉仕活動等など、本校の伝統的な取組を一層充実させ、生徒が誇りをもてる学校づくりを推進する。

(5) 健康・安全・防災

- ① スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実、学校医等と連携した健康教育の推進、保健委員会の活動の活性化などを図り、自殺対策に資する教育の推進、発達障害等の特別な支援が必要な生徒の心の健康の増進や学ぶ意欲の向上を図る。
- ② 感染症対策を施し環境整備に努め、清掃活動を徹底し、清潔で明るい学習環境をつくる。
- ③ 特別教育支援コーディネータを中心とした教育相談体制を充実させ、特別な支援を必要とする生徒への支援体制を構築し中途退学者の減少を目指す。

(6) 募集・広報活動

- ① 広報用リーフレット・動画の作成、中学校および学習塾訪問。見学会・説明会・体験授業・体験入部、の実施。HPやSNSのさらなる活性化。
- ② 施設設備の改修、備品の購入
- ③ 入試方法の見直し検討

(7) 学校経営・組織体制

- ① 高大連携を進め大学等の視察・見学を活発に行うと共に有識者の招聘を行う。
- ② デジタル技術を活用しDXを進め業務の質を高めるとともに、ICT環境を最大限活用して生徒の学びを保障する。
- ③ 日常の業務を通じて教育公務員としてのあり方を自覚するとともに、研修会を実施し教員相互でミスが起こらない職場風土をつくり、服務事故防止に努める。

- ④ 体罰・暴力行為・暴言等の根絶を図る。体罰に関する認識を教職員・生徒・保護者が共通理解し、体罰はしない、させない、許さない校内風土の醸成を図る。
- ⑤ 管理職は所属職員のライフワークバランスに気を配り、業務内容の見直しを進め、勤務時間の削減を目指す。職員会議の上限時間を1時間以内とする。
- ⑥ 防災体制を整備し、非常時に備えるとともに、関係機関や地域と連携して実践的な防災教育を推進する。また、各種防災訓練を充実させ、生徒の防災意識の向上を図るとともに、自助・共助のための実践的な知識・技能の習得を目指す。

(8) その他

- ① 各教科1年生指導の重点、年間授業計画を策定
 国語・社会・数学・理科・英語は、大学進学を想定した学力を伸ばす授業。
 体育・芸術・家庭・IT・環境は、実習や実験を通じて好きなことをもっと好きになって、学ぶ意欲を育てる授業。
 普通科目とIT環境科目を同時に学べるカリキュラムの優位性を活かした教科横断的な授業。

3. 重点目標と方策 (数値目標)

| | | |
|---------------|---|---|
| (1) 学習指導 | ① 生徒の満足度(授業内容、学習環境等) ② 授業時間外での学習時間(補習補講含む) ③ 資格指導等の充実 | 80%以上 1年生：50%以上 2, 3年生：10%以上 合格者数：延べ200名以上 |
| (2) 進路指導 | ① 進路実現に向けた指導 ② キャリア教育の充実 ③ 進学希望者への指導の充実 | 進路内定 100% 1年生：オープンキャンパス等への参加 2年生：インターンシップ |
| (3) 生活指導・健康安全 | ① 遅刻者数 ② ヘルメットの着用 ③ 教育相談の充実 ④ 中途退学者数の減少 | 前年度以下 100% 校内研修 2回以上 10名以下 |
| (4) 特別活動・部活動等 | ① 学校行事等の満足度 ② 部活動加入率の向上 ③ 地域連携事業等の充実 | 80%以上 70%以上 延べ5回以上 |
| (5) 広報活動 | ① 学校説明会、見学会の参加者 ② HP、Xの更新回数 ③ 中学校訪問等 ④ | 延べ600名以上 300回以上 各自3校以上 |
| | | |
| | | |

| | 項 目 | 数 値 目 標 |
|-------------------------|-----------------------------------|-----------------------|
| 学 習 指 導 | 学校評価アンケート（生徒） 杉工寺子屋は学習サポートに役立っている | 80%以上 |
| | 平日授業以外学習時間1時間以上（朝・放課後補習補講を含む） | 10%以上 |
| | 資格取得等の指導の充実、 国家資格取得者数 | 100名以上 |
| | 資格取得等の指導の充実、 認定資格取得者・検定合格者数 | 300名以上 |
| 進 路 指 導 | キャリア教育の充実、インターンシップの実施 | 2学年で実施 |
| | 就職指導の充実、就職希望者内定率 | 100% |
| | 学校評価アンケート 生徒 進路指導満足度 | 80%以上 |
| | 進学希望者の大学・専門学校進学率 | 95%以上 |
| 生 活 指 導 ・ 保 健 指 導 | 遅刻者数 | 前年度実績以下 |
| | 教育育相談の充実、スクールカウンセラーによる校内研修 | 2回以上 |
| | 暴力行為、いじめ件数 | 0件 |
| | 特別な支援を必要とする生徒に関わる会議 | 年5回以上 |
| | 中途退学者の数（転学を含まない） | 10名以下 |
| 部 特 別 活 動 指 導 指 導 | 学校評価アンケート 生徒 学校行事満足度 | 80%以上 |
| | 部活動加入率 | 70%以上 |
| | 地域連携活動 | 地域連携活動5部以上 または5回以上 |
| 募 集 ・ 広 報 活 動 | 学校説明会、見学会参加者数延べ数 | 600名以上 |
| | H P 更新回数 | 300回以上 |
| | 学力選抜応募倍率 | 1.1倍以上 |
| | 推薦選抜応募倍率 | 1.5倍以上 |
| 組 学 校 織 体 運 営 制 営 | 学校評価アンケート 生徒 本校に入学して良かったと思う | 80%以上 |
| | 学校評価アンケート 保護者 本校に入学させて良かったと思う | 80%以上 |

1. 方策

1) 学習指導：あきらめさせない指導の徹底と社会人として通用する基礎学力の定着

- ① あきらめない、あきらめさせない指導の中で学習習慣の定着を図る。
- ② 日々の授業を大切に、授業に取り組む姿勢を定着させ基礎学力の定着を図る。
- ③ ICT の活用などにより「わかる」「わかりやすい」を実感できる授業の工夫に取り組む。
→「わかる」、「わかった」から自信回復につながるような指導の工夫に取り組む。
- ④ アクティブ・ラーニングを実施し主体的・対話的で深い学びにつなげ学力の定着を図る。
- ⑤ 探究心の育成を図るために指導の工夫に取り組む。
- ⑥ 補習補講体制を充実させ、日頃の指導や長期休業日中の体制づくりを行う。
- ⑦ 資格取得の指導や検定指導の充実を進める。
- ⑧ 特に「学び直し」が必要な生徒に対しては「寺子屋事業」の活用や外部支援なども活用し個に応じた学習支援を行う。

2) 生活指導：規範意識の醸成と生徒の主体性の伸長を目指す

- ① 規範意識の醸成を図るため全職員での生徒への声掛けに努める。

- ② 安定した学校生活を送るために、家庭・保護者とも連携を取り基本的な生活習慣の定着を図る。
 - ③ スクールカウンセラー、自立支援チームを組織的に活用し、生徒や教員が相談しやすい環境づくりを行う。
 - ④ いじめの未然防止の観点からも心の教育を充実させ、組織的な取組を行う。また教員間の情報共有を十分に図れるような体制を作る。
 - ⑤ 問題行動の未然防止に努める。特にいじめにつながりかねないSNS等の使い方については指導を徹底させ、生徒間のトラブル等の未然防止を図る。
 - ⑥ 安全教育を推進し、セーフティ教室などを充実させる。
- 3) 進路指導：3年間を見通したキャリア教育の充実を図り、職業人を育てる**
- ① キャリア教育の視点で3年間を見通した進路指導を行い、キャリア教育の充実を図る。
 - ② 外部との連携による進路講話等を充実させ、健全な勤労観や職業観を育成する。
 - ③ 勤労観や職業観を育成するために2年生全員でのインターンシップや3年生でのデュアルシステムを充実させる。
 - ④ 就職試験に対応できる力や技能を身につけさせ、進路決定率100%を実現する。
- 4) 特別活動：生徒の帰属意識や自己有用感を育てる**
- ① 体育祭や文化祭などの学校行事を活性化させ生徒の帰属意識や自己有用感を高める。
 - ② 生徒会活動や部活動を活性化させ帰属意識や自己肯定感を高める指導を進める。
 - ③ ボランティア活動を推進し、地域行事や防災活動に積極的に参加させ、コミュニケーション力や自己有用感を育成する。
- 5) 広報活動・募集対策：本校の理解促進と地域に根差した学校理解を進める**
- ① 本校の教育活動や生徒の姿を広く中学生や保護者、中学校関係者、地域等に紹介し理解していただくためにあらゆる機会を使い積極的に広報・募集活動を行う。
 - ② 学校説明会や見学会、体験入学などを積極的に行い、今まで以上に充実を図る。
 - ③ 地域に開かれた学校を目指し、長期休業日中の小中学生向けの講座（わくわくドキドキ夏休み工作スタジオ等）や公開講座を実施すると共に、施設開放を行っていく。
 - ④ ホームページやSNSによる情報発信を充実させ、日々の学校の様子を発信するとともに本校の理解促進に努める。
 - ⑤ 全職員での広報活動を図り、学校理解と募集対策に努める。
- 6) 健康・安全・防災：心身ともに健全な生徒を育てる**
- ① 地域や関係機関と連携を図り、計画的に防災訓練等を実施し「自助・公助・共助」の精神を育成するとともに、防災意識の向上とボランティア精神の育成を図る。
 - ② 生徒の健康促進を図るため、健康診断の確実な受診と健康への意識向上のために食育教育や健康推進教育の充実を図る。
 - ③ スクールカウンセラーや関係機関と連携を図り、いじめの未然防止や心の教育のために全力で取り組む。
 - ④ スポーツ活動や体育を推進し体力向上を進め、スポーツを楽しめる体作りと共にはけが防止や病気防止につながるように指導する。
 - ⑤ 外部機関等と連携し交通安全教室や薬物禁止講話などを実施し、安全教育に努める。
- 7) 学校経営・組織体制**
- ① 組織的な取組
 - ・ 企画調整会議の機能を高め、学校経営の理解浸透と各分掌、学年、工業科、経営企画室の意見聴取の双方向性を高める。また、企画調整会議での決定や懸案事項の情報共有化を全職員で図り、教職員の経営参画意識を高める。
 - ・ 教科指導の充実を図るために教科会の活性化を図る。
 - ② 教職員のコンプライアンスをより向上させるために校内研修等で周知徹底を図る。
 - ・ 校内研修等を実施しサービスについて理解を進めると共にサービスの厳正を徹底する。
 - ・ 機会ある毎に個人情報の管理の徹底を促すと共に相互の注意喚起にも努める。

- ③ 若手教員の育成のために組織的な OJT を行うと共に、校内研修の活性化を図り教職員の資質の向上を図る。
- ④ 働き方改革プランを推進させ、仕事の効率化を行うと共に、ライフワークバランスの実現を図り公私ともにバランスの取れた豊かな生活を目指す。
- ⑤ 経営企画室との連携を深め、円滑な学校運営ができるように努める。

I. 今年度の取組目標と方策

1. 目標と方策 「一步早い自立を目指して “Think & Challenge”」

| 目 標 | 方 策 |
|--|--|
| 学習指導 (あきらめさせない指導の徹底) <ul style="list-style-type: none"> ① 学習習慣の定着と充実 ② <u>基礎学力の定着と向上</u> ③ 補習補講体制の充実 長期休業中の補習補講 ④ 資格取得指導の充実 ⑤ 探究心の育成 読書活動等の充実 ⑥ レポート・課題の指導 ⑦ <u>オンライン授業の確立</u> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ スモールステップの授業の実践により達成感と、繰り返しによる学力の定着を図る ➤ アクティブ・ラーニング (AL) を実施し主体的・対話的な学びにつなげ学力の定着を図る ➤ 朝の時間を有効活用し復習、振り返り、まとめを充実させ確実な定着を図る ➤ 校内寺子屋事業を活用し組織的に基礎学力の定着を図る ➤ 成績の伸び悩んでいる生徒への補習の徹底を図る ➤ 学期ごとの指導を徹底し基礎学力の定着を図る ➤ 全職員で長期休業中に補習・補講を行う (年 2 回以上) ➤ <u>組織的な資格取得に向けた体制を作る</u> ➤ <u>探究心を育成する授業の工夫を図る</u> ➤ 調べ学習や主体的学習を積極的に行い、図書館の積極的な活用を促し探究意欲と態度を養う。 ➤ 書けない生徒に対するレポート指導の充実 ➤ 期限を守ってレポート等の提出ができるよう指導の徹底 ➤ 緊急時に対応できるようオンライン授業等を全教職員が活用できるようにする |
| 生活指導 (生徒の主体性を伸ばす指導) <ul style="list-style-type: none"> ① 規範意識の醸成 ② 教育相談の充実 いじめの未然防止 ③ 安全教育の充実 ④ SNS 等社会規範の教育 | (社会人として生きていくための指導) <ul style="list-style-type: none"> ➤ あいさつの習慣をつけさせるとともに、他人に対する態度等を養うように指導する。 ➤ SC、YSW 等の活用により相談しやすい環境づくりを図る ➤ SC による全員面接の実施 ➤ 集会や HR 等でのこまめな呼びかけの徹底 ➤ 外部機関とも連携し、セーフティ教室や交通安全指導を行っていく。 ➤ いじめに繋がりがかねない SNS 等の使い方の指導やインターネット社会の便利さと怖さを指導していく。 |
| 進路指導 (将来を考えさせる指導) <ul style="list-style-type: none"> ① 進路決定率 100%の実現 ② 全学年を通じた体系的なキャ | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 就職試験に対応できる力 (SPI 検査、作文、面接等) や技能 (資格取得等) を身に付けさせる ➤ 面接指導等、組織的な指導の充実を図る ➤ 1 年生から体系的な進路指導体制を作る |

| | |
|---|---|
| <p>リア教育の充実</p> <p>③ キャリア教育の充実</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 学年進行に応じた関係機関と連携した進路ガイダンスの実施 ➤ 学年、工業科と連携したインターンシップ（2 学年全員）とデュアルシステム（3 年希望者）を充実させ、進路活動につなげていく。 |
| <p>特別活動・部活動 等</p> <p>① 学校行事の活性化</p> <p>② 部活動の活性化</p> <p>③ 生徒会活動の充実</p> <p>④ 地域との連携の充実</p> | <p>(学校生活を充実させるために)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 生徒の満足度を上げるため学校行事の内容をより充実させる ➤ 部活動加入率を上げ帰属意識を高める ➤ 生徒のやる気を引き出し、主体的な活動を導く ➤ 学校行事や挨拶運動で中心となるように指導する ➤ 地域のイベント等に積極的に参加する。(富士見祭り、地域防災訓練等) ➤ 公開講座や小中学生を対象とした体験的学習を積極的に行い、地域との連携を充実させる。 |
| <p>広報活動・募集対策</p> <p>① 学校説明会等の充実</p> <p>② 学校理解を推進するため HP、Twitter の充実</p> <p>③ 地域等への貢献</p> <p>④ 中学校訪問の充実</p> | <p>(ものづくりの楽しさを伝え、さらなる学校の理解推進を図る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 校内外での学校説明会等 8 回以上、体験入学 2 回の実施 ➤ HP や SNS での学校情報の更新頻度を上げる 年間での更新回数 100 回以上 ➤ 近隣小中学校との連携事業の充実 地域祭りや防災訓練等への参加 ➤ 板橋区、北区を中心に全職員での中学校訪問。特に板橋区、北区は 2 回以上 他を含め延べ 150 校以上 |
| <p>学校経営・組織体制</p> <p>① <u>朝の時間の有効活用</u></p> <p>② 組織力の向上と強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画調整会議の充実 ・ 教科会の充実 <p>③ コンプライアンスの向上</p> <p>④ 校内研修の充実と OJT の推進</p> <p>⑤ ライフワークバランスの推進</p> <p>⑥ 経営企画室との連携強化</p> | <p>(『北豊島工科高校』として)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 新しい時程による朝の時間を有効活用し個別の指導を充実させる ➤ 各分掌、学年、企画室等との双方向の意見集約を図り学校経営への参画意識を高める。 ➤ 共有フォルダ等の活用により情報の共有化を図る ➤ 月 1 回の教科会を実施し、学力分析や課題把握を行い、教材研究を進める。また教科としての補習補講計画を実施する。 ➤ サービスの厳正の徹底を図るために校内研修等を 2 回以上実施 ➤ 個人情報の管理を徹底するために校内ルールの徹底と職員室等の環境整備を行う ➤ 体罰及びサービス事故“0”の実現 ➤ 若手育成のために担当主任教諭とのペアでの OJT の実施 ➤ 定期的な校内研修の実施 ➤ 業務内容の見直しや仕事の効率化を図る ➤ 仕事の偏りを軽減するために組織的な取組を推進する ➤ 部活動指導員などの外部人材の登用 ➤ 連絡・報告を確実にいき円滑な学校運営ができるよう努める |
| <p>健康・安全・防災</p> <p>① 防災教育の充実</p> <p>② 生徒の健康推進教育の充実</p> | <p>(生徒の安全安心を推進のために)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 避難訓練の適正な実施と地域と連携した防災訓練の実施 ➤ 防災支援隊を活用した組織的な防災訓練等の実施 ➤ 生活習慣の確立、食育の推進を図るための講演等の実施 |

| | |
|-----------------|---|
| ③ 心の健康教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 教育相談体制の充実 ➤ SCによる全員面接の実施 ➤ 特別支援教育に係る委員会等の充実 |
| ④ 安全・安心な学習環境の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 危険個所の早期発見と修繕を徹底する ➤ 学習環境の整備の推進 |

2. 重点目標と方策

A) 全職員で取り組むこと

- 1 わかりやすい授業への取組と補習補講の充実
 - ・長期休業日中の補習補講の実施（年2回以上）
 - ・相互の授業参観の実施（年2回以上の参観）
 - ・ICT等の活用、ALの取組み、オンライン授業の取組み
- 2 全職員での広報活動
 - ・地域中心（板橋区、北区を中心とした）の中学校訪問の実施
 - ・上記を含めた中学校訪問（3回以上）
- 3 規範意識醸成のための全職員での声掛け（生徒の主體的な行動を促す）

B) 各分掌事の重点目標

| | | |
|---------|---|--|
| ① 1学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・中途転退学者の減少 ・学習習慣、生活習慣の定着 ・保護者、家庭との連携強化 | 在籍数の1割以内 遅刻欠席の減少と補習補講の充実 丁寧な連絡と記録の徹底 |
| ② 2学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・中途転退学者の減少 ・インターンシップの充実 ・保護者、家庭との連携強化 | 在籍数の3%以内 全員参加 丁寧な連絡と記録の徹底 |
| ③ 3学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・中途転退学者をなくす ・進路決定率100%の実現 ・保護者、家庭との連携強化 | 全員の卒業 100%の進路実現 丁寧な連絡と記録の徹底 |
| ④ 教務部 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間での校務スケジュール管理 ・授業時数の確保に向けて ・各分掌との連携強化 ・教育課程やC4thの円滑な運用 | 計画的な行事管理 臨時時間割など早めの周知 観点別評価を含めた評価方法の確立 |
| ⑤ 生活指導部 | <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の醸成 あいさつ指導等 ・特別指導等の未然防止指導の徹底 ・授業規範の徹底 | 全職員での声掛けの徹底 特別指導件数：前年度件数以内 |
| ⑥ 進路指導部 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路決定100%の実現 ・3学年を通しての進路指導の充実 | 進路決定100% 各学年との連携による進路指導 |
| ⑦ 総務部 | <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の充実と組織的な取組 ・中学校教員向けの広報活動 ・中学校訪問の充実 ・HPやSNSの充実 | 学校説明会等 8回 体験入学 2回 教員向け学校説明会の実施 全職員で中学校訪問 延べ150校以上 HP、Twitter更新100回以上 月間8回以上の学校情報の更新 |
| ⑧ 工業科 | <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得等に向けた指導の充実 ・レポート指導の充実と徹底 ・評価の透明性を図る | 前年度と同程度の合格者 書けない生徒への指導の充実 提出を守ることの指導の徹底 確実なレポート、作品等の返却と評価の透明化 |

| | | | |
|---|----------|--------------|-------------------------------------|
| ⑨ | 学校としての取組 | ・地域との連携事業の充実 | 地域祭り等への協力 地域センターとの連携 小中学校との連携 |
|---|----------|--------------|-------------------------------------|

令和6年度 目指す学校像

(1) スクールミッション

Society5.0 社会の到来、SDGs の実現に向け、IT を駆使して、環境問題など社会の課題を解決に導く人を育成する。(様々な企業や会社の中核でGX・DXを担う人を育てる。)

(2) スクールポリシー

① グラデュエーションポリシー

- ・目標とする大学へ進学するための学力を身につける。
- ・幅広い教養を身につけ、生涯にわたって学び続ける姿勢を育てる。
- ・電子工学、情報工学の基礎的知識および環境リテラシーを身につけ、より高度な学びに向かう姿勢を育てる。
- ・Society5.0 社会における環境問題など社会の課題を解決に導く志を育てる。
- ・自他を思いやる心、仲間と協働してものを作りだす力を育てる。

② カリキュラムポリシー

- ・IT、環境に関する教科から普通教科まで、幅広く学習できるカリキュラム編成
 - 1・2年生は、必修科目を中心としたカリキュラムにより、基礎から応用までバランスの取れた学力を身につけます。3年生は、自由選択科目をおくカリキュラムにより、生徒一人一人の進路目標に必要な学力を身につけます。
- ・体験型・課題解決型の教科横断的な学習

ITや環境をテーマに探求的な学習活動を行うことにより、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力を育み、他者と協働して課題を解決する力を身につけます。
- ・大学へ進学するためのプログラム

連携関係を結ぶ大学の特別講義やゼミへの参加などを行うことで、高校の学びの先の大学を意識させます。

英語検定2級、数学検定2級、ITパスポートに全員が合格することを目指し、放課後補習やオンライン教材による自学習を充実させます。

外部模擬試験で成績の定点観測を行い、授業で弱点教科を改善し、得意教科の伸長を目指します。

③ アドミッションポリシー (求める生徒像)

- ・ITや環境に関心があり、将来は大学に進学する意思を持って積極的に授業に取り組む生徒
- ・中学校で学ぶ基礎学力を概ね身につけている(目安として評定平均3.5以上、数学と英語は4.0以上)生徒
- ・学校行事、部活動、生徒会活動等に積極的に参加し、自他を思いやり、仲間と協働すること

ができる生徒